



発行  
日本共産党  
春日部市委員会  
春日部市粕壁東  
6丁目7-12  
電話 748-5159  
FAX 748-5179

## 帯状疱疹予防ワクチン接種補助が実現 接種一回に対して4000円の補助

3月議会に「帯状疱疹予防ワクチン接種補助」の予算が計上され、ワクチン接種補助が実現しました。

市民から「帯状疱疹は、痛みが酷く、この痛みは経験した人でなければわかりません。しかし予防ワクチンは高額です。ぜひ、春日部市もワクチン接種補助を」との声が届き、令和4年9月議会で今尾やすのり議員が初めて一般質問で取り上げました。

帯状疱疹は神経に潜んでいた水痘・帯状疱疹ウイルスが活性化することで発症する皮膚疾患です。このウイルスの

保有者であれば、誰でも帯状疱疹になる可能性があります。

日本人の多くは幼少期に水疱瘡に罹患しているため、成人の約9割以上がこのウイルスを保有しています。心身ともに健康であればこのウイルスが再び活性化することはありませんが、加齢や過労、ストレスなどで免疫力が低下すると潜伏していたウイルスが活性化してしまいます。

### ワクチン接種で健康長寿をめざそう

帯状疱疹は誰でもなる可能

性をもつということ、この間国もワクチン接種を推奨しています。

春日部市第2次総合振興計画において、誰もが健康で幸せに暮らせるようにと「健康プロジェクト」を掲げ、健康寿命の延伸をめざしています。

このような中、コロナ禍でストレスを抱え込んだ高齢者が帯状疱疹を発症して外出の機会が減少し、介護状態になることを予防するために、帯状疱疹予防ワクチン接種費用に補助をすることとしました。近隣では宮代町も令和6年度より実施する予定です。

### ワクチン接種補助は7月より開始します。

ワクチン接種補助の内容は、以下の通りです。

〔補助額〕  
1回接種の生ワクチン（8000円程度）に対して4000

0円、2回接種の不活化ワクチン（1回2万2000円程度）に対して1回につき4000円です。医療機関によって接種料金は異なります。

〔対象〕 50歳以上の方

〔申請方法〕

- ①接種を希望する旨を市に届け、依頼書をもらう
- ②接種後領収書等を提出し、指定の口座に補助額が入金される

〔周知方法〕

ホームページやSNS  
4月の広報で実施する旨は知らせてあります。申請をいつから開始するかなど詳細は6月以降にホームページ、SNSで知らせます。

補助額を差し引いて、接種できるようにできないか、周知は、ホームページやSNSだけでなく、医療機関にポスターなどを掲示して知らせるなどわかりやすい方法を検討することを要望しました。

<生活相談は日本共産党へ>

並木としえ 737-4576 大野とし子 746-6136 今尾やすのり 761-3676 木下みえ子 734-4677

日本共産党市議団ホームページ <https://www.jcp-kasukabe.jp/>



並木としえ議員一般質問

# 公民館の改善・充実と 使用料の無料化を！



3月12日、並木としえ議員は①公民館の改善・充実と使用料の無料化を ②児童虐待ゼロ、安心して子育てできる春日部にの2点について一般質問をおこないました。

## 地域づくりの拠点としての充実を

4月から各地区公民館に地区センターが併設されました。しかし、市内の公民館はいずれも老朽化が著しく、改築や改修は急務です。「限られた財源の中で、緊

急性の高いものから修繕をおこなっている」のが現状です。並木としえ議員は「地域づくりの拠点として充実を図るためにも改修や建て替えの計画を作るべき」と主張しました。

社会教育部長は「令和6年度に予定している正風館リノベーション工事は、施設の長寿命化、中長期的な維持管理、トータルコストの縮減を目的に個別計画を策定しました。地域の実情を把握しながら、引き続き計画的に取り組んでいきたい」と答弁しました。

## すべての利用が公益 利用料は無料に

公民館に地区センターが併設されたことを契機に

「自治会の総会や役員会など公益性のある会議で使用する場合に使用料を免除する」ことになりました。

並木としえ議員は「公民館は自主的な学びを通して地域をつくる拠点であり、すべての利用者が公益性のある利用です。市民を公益かそうでないか差別するのではなく使用料そのものを無料にすべき」と求めました。

市長は「有料化されて16年が経過し、受益者負担の考え方には一定の理解をいただいている」という考えを示しました。

## 児童虐待ゼロへ 支援の充実・強化を

春日部では2021年に相次いで乳児、幼児の虐待による死亡事件が発生しました。4月からこども家庭センターが本格稼働するこの機に、児童虐待ゼロ、安

心して子育てできる春日部にするために市の取り組みの充実と強化を求めました。

こども未来部長は「虐待はこの家庭でも起こり得るものと捉え、社会全体に対して予防・防止の取り組みを進めることが必要」としたうえで「4月から設置することも家庭センターは、妊産婦、こども、保護者の希望を汲みつつ関係機関との調整を行い必要なサービスタにつなげていく役割を担います。個々の家庭の課題やニーズに対応するため、その家庭に適したサポートプランを策定し支援を行います。また、こども家庭センターが中心となりすべての妊産婦、こども、子育て世帯に対して切れ目なく、もれなく支援を行いながら、これまで以上に児童虐待の発生防止、早期発見に努めます」と答弁しました。



市立医療センター TEL735-1261(夜間毎日、土・日・祝日)内・外科系 小児救急電話相談 #7119  
4/7(日) 染谷医院(内科系)西宝珠花700TEL748-1011 関根医院(小児科系)新宿新田226  
TEL746-7211 かすかべ整形外科・内科ほまれクリニック(外科系)八丁目87-1TEL760-2551  
4/14(日) 春日部中央総合病院(内科系)見取町5-9-4TEL736-1221 久野医院(小児科系)  
六軒町204TEL737-1234 南桜井ばば眼科(外科系)大倉496-14ヤオコー2階TEL718-0111